

杉並景観録

Keikuan-Roku

SUGINAMI

第四号



SUGINAMI CITY

●発行日 平成10年2月16日
●発行 杉並区都市整備部まちづくり推進課
TEL.3312-2111(代) 内線3515



冬から春へ

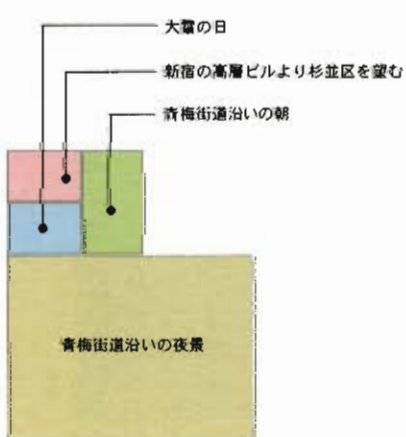
寒さが身にしみとおる冬の夜道では、夜景がことさら美しく見えます。澄みきった冬空を見上げると、星に誘われ、想いはいつしか銀河鉄道のかたへ。大雪に見舞われた今年の冬、降りしきる雪はいつもの「まち」を見知らぬ「まち」に変えました。

大人たちは雪かきで大変でしたが、子供たちは大喜びで雪だるまや雪合戦。そんな雪景色の庭に南天の実が赤く輝いていました。

ネオンのぬくもり

立春が過ぎ、寒さもゆるみ、青梅街道沿いのネオンも、心なしかいつもよりもくもりが感じられます。

今夜、街路樹を抜けて、静かに冬が旅立ってゆきます。



昭和24年4月 女子美術大学の表札を掲げた正門



女子美術大学は、明治三十三年に『女子美術的機能ヲ發揮セシメ専門ノ技術家及教育タルベキ者ヲ育成スル』を目的に私立女子美術学校として創設されました。弓町から本郷菊坂そして、昭和十年に現在の杉並の地へ移転し、その後女子美術大学と改名しました。現在大学は、相模原キャンパスに移転したため、杉並キャンパスは短期大学の学生と付属高校・中学の生徒が交通至便な住宅街に位置する恵まれた環境のなかで学んでいます。

学生の楽しい様子を見守る見事な桜の木と銀杏並木に支えられ、杉並キャンパスの一年は豊かにめぐっていきます。

女子美術短期大学



大きな2枚の羽が特徴です。女子美のシンボル ニケ像



それぞれの学生時代を語る

●通っていたところと今と違うところは：ずいぶん変わりました。昭和三十年頃、女子美の周りは寂しかったです。校舎も木造ペンキ塗りのどこかの女学校を移築したものでした。青梅街道近くには都電が走っており、駅名は「中野天神」。のどかな景色で武蔵野の面影が色濃く残っていましたね。

●環状七号線の辺りはどうでしたか：主要道路である環状七号線は三十六年頃から工事を始めていました。なにしろ田んぼや畑、野っぱが多いところでしたね。

●皆さん杉並に住んだ事があるそうですね：学生時代は杉並に下宿を借り、女子美に勤め、今も杉並に住んでいます。何度も引越しました。杉並に居着いてしまったんです。そういう人多いのではないですか。住みやすい街なんですね。

●学生の気質について：ある観光地の駐車場でいろいろな大学のバスが止まっているのに、なぜかうちのバスだけ雰囲気が違うんです。なぜでしょう。基本的に大きな荷物を持っていたり、絵の工具箱を持っているので分かります。

●武蔵野の面影が色濃く残っていました。

●画家の街とは：十貫坂の高台に洋館がありました。そのご近所にお住まいだった木村荘八さんがその洋館を描いた作品があります。その他にも加藤成之さん、水谷清さんが住んでいたと記憶しています。画家に囲まれていたなんて素敵ですね。

●ますけど。女子美生は何となく匂いがあるんです。何か濃いというか。地下鉄の駅でもすぐ分かります。



インタビュアー
尾崎 千佳
在学中 情報デザイン専攻
杉並区在住

女子美術短期大学 教授
高尾 みつさん
昭和36年卒業 洋画科
杉並区在住

女子美術大学企画調査室 部長
浅妻 美知留さん
昭和60年卒業 日本画科
杉並区在住



女子美広告研究会一年M

住宅地で路地の多い和田・方南は猫のいる風景が似合います。猫を追ってまちを探索してみました。

出会う猫は毛色や顔、体型がさまざまで見えてあきません。飼っている猫はやはり人になつきやすく甘えるし、のら猫はすばしっこくたくましい。学校に住みついていた猫は学生にかわいがられているせいか野良にもかかわらざるがいい好きです。

また、まちの環境が猫の生活に影響を与えています。和田・方南は静かなまちだけに猫たちも住みやすそうで、のんびりと平和な生活を送っています。

猫の生活ぶりから逆にまちの様子がうかがえるようです。猫が住みつくまちは、人にとっても「いいまち」なのかもしれません。



猫のいる風景

すぎなみ／ひと／まちなみ

SPECIAL EDITION



和田中央公園 ゲートボールで賑わう



東高円寺駅

和田のまちの桶職人 酒井さん 手仕事75年

住宅街の一角に桶が並んだガラス張りの店がある。となりの作業場には使い込まれた道具や木片、タガが無造作に置かれている。この店の主人の酒井正太郎さん(85)が快くお店の中を見せてくれた。ガラス戸を開けると、木のいい匂いがふんとした。壁には鉋がびっしりとかけられていて、百三十から四十はあるとのこと。どれも使い込んであり、独特の温もりがある。

酒井さんは一代目。十才の頃から桶屋だといふ。関東大震災で東京は焼け野原となり必需品であった桶は飛ぶよ



うに売れ猫の手も借りたほど、それから家業を手伝い始めた。杉並区に移転したのは戦争中のこと。「その頃、和田も畑がっぱいでした。しいとえだつた。そこから、中野の電車の音が聞こえたんだから、ずいぶん変わったなあ。一桶の寸法本をめぐりながら、目を細めた。

和田のこの辺りは、中野の電車の音こそ聞かえないが静かでのんびりとした雰囲気がある。散歩道にはいい人との出会いがある。一桶くらい難しいものはない。桶は作ってからの勝負。いい品物はくるわれない。



東京じゃ手作り桶を作るのも私くらいじゃないですか。「桶作りの技術が杉並の地で続いているのを知りうれしくなりましたが、三代目はいないそうです。

酒井さんはまだまだ現役職人としての誇りに満ちた笑顔が心に残った。

和田・方南 路地散歩マップ

青梅街道沿いの東高円寺駅は蚕糸の森公園のうっそうとした緑に囲まれています。この公園は、昭和六十一年に旧蚕糸試験場跡地に地域住民の憩いの場、体力作りの場、そして防災性を備えた公園として開園。ジョギングコースや池、滝などがあり一回りするだけで心が和みます。晴れた日の午前中には寛く入るやはいやく子供でいっぱい。公園でくつろいだ後は隣接する杉並第十小学校の横を通り住宅街へ入ります。庭やベランダの植木、花や実の名前を当てっこしながら右みて左みて散歩。細くて薄暗い路地を入ると、壁に一輪ピンクの椿が太陽のスポットで美しく咲いていました。路地には宝物が隠れています。日向はこの猫は目を半分開けて出迎え、近づくと面倒くさげに屋根に上っていき



善福寺

東高円寺駅をスタートに和田方南の散歩も方南町駅に到着しておしまひ。次はどこを散策しましょうか。

善福寺は、通称「釜釜」と呼ばれる東運寺は静かな場所にひっそりとあります。門をくぐると竹林があり、小さいながら趣のあるお寺です。釜釜の由来は釜ゆでにされそうになった厨子王をお坊さんの姿になって身代わり地蔵尊が助けたという言い伝えがあり、これにちなんで本堂の屋根に釜を置いたところからきています。階段を上がると、いよいよお釜にご対面。屋根の上を底を上げて確かにお釜がありました。さらにここは、縄文時代、古墳時代の遺跡が出土した場所。住居跡や土器、首飾りに使われた玉などが発見されています。

あの道、この道、散歩道

カメラのレンズ越しにいつもの道をのぞき見ると今までは違った風景に出会えます。また、わざわざ細い道を選んで回り道をすると古いお寺やかわいなお地藏さま。きれいに花を飾っている家を発見。道にはそれぞれ歴史や毎日の生活があふれ、初めて通った道なのに何故か懐かしい感じがします。細い路地の向こうに何かあるのか知りたくて、散歩がてら和田と方南を歩きました。お天気の良い日は路地を抜けて散策してみませんか。



道端のお地藏さま



路地風景

地下鉄東高円寺駅から方南町駅へ

散歩は目線だけではもったいない。道路際の雑草や屋根の上の置物などいつもと違った見方で歩いてみましょう。あちこち見ていたらお腹も空いてきて方南商店街で食べ歩き。

和田中央公園は児童館の裏手にある細長い公園です。公園の広場ではご近所の方がゲートボールを楽しんでいました。あまり起伏がない和田ですが、ちよつと坂を登って下って東円寺へ。境内に入ると赤いよだれかけをしたお地藏さまに会えます。

普門館を過ぎ、川を渡って方南へ。川の名前は善福寺川、善福寺池を源とし杉並区と合流します。

N

E

杉並景観録

W

S



桃井の住宅 桃井1-39



阿佐谷北の住宅 阿佐谷北5-45

Fabian (フェビアン) 宮前5-5



浜田山の門 浜田山3-16



阿佐谷南の住宅 阿佐谷南2-23



梅田漬物店 和泉2-33

Suginami urban design prize 1997

第6回 杉並『まち』デザイン賞

寄り道したくなる「まちなみ」みつけられました。

区では杉並の魅力あるまちなみづくりに貢献している建物や地域活動などを杉並「まち」デザイン賞として表彰しています。

平成元年からはじまり前回までに26件が表彰されています。今回で6回目を迎え、昨年7月に候補の募集を行ったところ、77件の応募・推薦がありました。各分野で活躍されている5人の選考委員による審査を経て、6件が選ばれました。

杉並「まち」デザイン賞が皆さんと一緒に、杉並らしいまちづくりを考えるきっかけになることを期待し、今回の表彰対象をご紹介します。

90人のまちづくりプラン—阿佐谷—



杉並第一小学校パネル展示

区役所西棟ロビーで1月19日から27日の間、杉並第一小学校の4年生54名のまちづくりのパネル展示が行なわれました。「まちづくりはわたしたちの手で」をテーマに思い思いのプランを画用紙いっぱい描いてくれました。

東京電機大学公開授業



工学部建築学科3年生36名が1月19日杉並区職員研修所で、阿佐谷のまちづくりプランを発表しました。住民など70名を前にしての発表は緊張と熱気にあふれるものとなりました。



ギャラリー・ニケ

女子美術短期大学杉並展示場

美術大学として、美術作品を蒐集、保存、展示することは、大学の使命です。そして、広く社会に供覧し、大学と社会をつなぐ窓口としての役割もあります。杉並展示場「ギャラリー・ニケ」では毎年10企画ほどの展覧会を開催しています。ぜひ、ご来場ください。

展覧会開催時 開催時間 平日10:00~17:00(土15:00まで)
●日曜・祝日 休館 ●入場無料 ●TEL 5340-4500

編集後記

今回の杉並景観録は、杉並区役所と女子美術短期大学広告研究会、同校情報デザイン専攻研究室の協力で制作しました。

夏休みから約半年、杉並区内をあちこち歩き回り取材・編集し完成させたものです。紙面という形で発表できたこと、とてもうれしく思います。



取材風景